

石油精製設備を活用した廃プラスチック熱分解油処理の実用化について

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:松下功夫)は、2004年4月から当社水島製油所(所在地:岡山県倉敷市、所長:黒崎 猛)において、廃プラスチック熱分解油(注)(以下「廃プラ油」)を石油製品へ再生する処理技術について実証試験を行ってまいりましたが、本年7月から実用化段階に移行いたしました。本処理技術の実用化は国内石油会社として初となります。
(注) 廃プラスチック熱分解油
固体プラスチックを加熱処理して液体炭化水素を取り出す方法(油化法)により産出される油のこと。
2. 具体的には、水島製油所において、札幌プラスチックリサイクル株式会社(本社:北海道札幌市、社長:伊藤清一郎)の油化プラントで産出される廃プラ油を受け入れ、石油精製設備の一つである水素化精製装置を活用して石油製品(主にナフサ)へ再生いたします。
3. 当面、実証試験段階と同量の年間1,000KL程度の廃プラ油を処理いたしますが、将来的には処理量を拡大していくことを検討しております。
4. 当社は、地球環境保全に貢献する観点から本技術開発に取り組んでまいりましたが、4年間の実証試験により設備への影響等を確認し、実用化技術を確立できたことから、今回、実用化へ進むことといたしました。
5. なお、わが国で排出される廃プラスチックは年間約1,000万トン(2006年)あり、そのうち約1万トンが油化プラントで処理され、年間約5,000KLの廃プラ油が生産されております。

以上